

一般市民及び専門家による歴史的建築物の評価に関する研究

北海学園大学大学院 学生員 盛 亜也子
北海学園大学大学院 学生員 鈴木 聡士
北海学園大学工学部 フェロー 五十嵐日出夫

1. はじめに

平成8年に「文化財保護法」の改正によって「登録文化財」が導入された。これは、築後50年以上の建造物を保全・利活用していこうとするものである。そして近年、これを活用した「まちづくり」活動が高まりつつある。さらに、このような「まちづくり」には、市民の意見を取り入れていくことが重要と考えられる。そのためには、一般市民・専門家双方の意見・意識を明確に把握することが必要となる。そこで本研究は、AHPによって、歴史的建築物の評価を一般市民・専門家双方の視点から行い、両者の評価意識を明らかにする。そしてこの評価結果をもとに、今後の「登録文化財」を活かした「まちづくり」の方向性を考究するものである。

2. 歴史的建築物の評価

2・1 評価要因の設定

(1) 建築関係者

平成11年11月6日(土)、北海学園大学工学部内にて、建築関係者等の4名(男3名、女1名)でブレインストーミング、KJ法により評価要因を次のように設定した。1. 歴史性：建築物の歴史的価値等、2. デザイン性：色、外観等、3. 愛着度：思い入れ等、4. 技術性：建築物に使われている材料等、5. シンボル性：地域らしさ、象徴性等、6. 調和性：周辺の景観・建物との調和等

(2) 一般市民

平成11年12月1日(水)、北海学園大学工学部内にて8名(男7名、女1名)により建築関係者の場合と同様の方法で次のように設定した。1. 歴史的背景：建築物の歴史的背景、修築の有無等、2. デザイン性：色、外観、材質等、3. 愛着度：思い入れ等、4. 利活用性：これからの実用性、現在の利用のされ方、アクセスのしやすさ等、5. シンボル性：地域らしさ、象徴性等、6. 調和性：周辺の景観・建物等との調和等

2・2 代替案の選定

(1) 建築関係者

平成11年11月13日(土)、北海道大学工学部内にて19名(男15名、女4名)で札幌市内にある歴史的建築物についてブレインストーミングを行った。これらについて、「代表的な歴史的建築物である」を「1」、「代表的な歴史的建築物でない」を「0」としてアンケートを行い、上位6つを代表代替案として選定した。以下にそれらを示す。

北海道庁旧本庁舎(道庁赤レンガ)、豊平館、札幌市資料館、札幌知事公館、札幌市民会館、旧拓殖銀行本店

(2) 一般市民

平成11年12月1日(水)、北海学園大学工学部内にて8名(男7名、女1名)で建築関係者の場合と同様に代表代替案を選定した。以下にそれらを示す。

北海道庁旧本庁舎(道庁赤レンガ)、豊平館、札幌市資料館、旧拓殖銀行本店、時計台、札幌ファクトリーレンガ館

2・3 AHPによる歴史的建築物の評価

AHPの評価手法として、本研究では絶対評価法を用いた。さらに評価水準を「とても良い」、「良い」、「普通」、「悪い」、「とても悪い」の5段階に設定し、評価水準のウェイトを評価水準ウェイト理論による理論値¹⁾によって設定した。なお、有効回答はC.I.<0.15とした。

キーワード：AHP、歴史的建築物

連絡先：〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1-1, TEL011-841-1161(内760), FAX011-551-2951

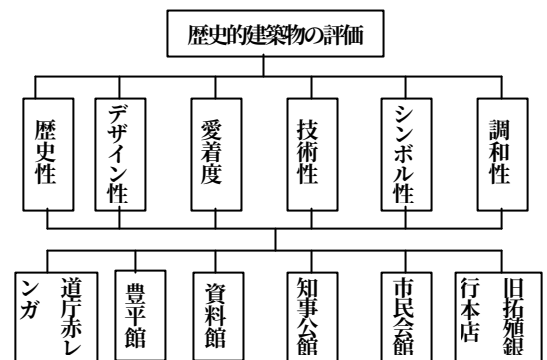


図-1 階層図 (建築関係者)

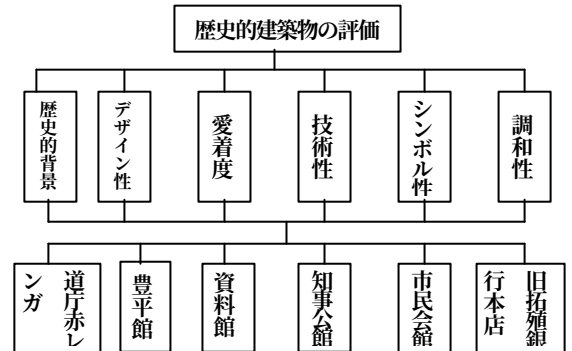


図-2 階層図 (一般市民)

(1) 建築関係者

実施日は平成 11 年 11 月 13 日（土）、実施場所は北海道大学工学部内、また対象者は建築関係者 19 名（男 15 名、女 4 名）、そして有効回答数は 11（男 9、女 2）であった。

(2) 一般市民

実施日は平成 11 年 12 月 3 日（金）、実施場所は北海学園大学工学部内、また対象者は札幌圏に在住の一般市民 13 名（男 10 名、女 3 名）で、全て 20 代であった。なお、有効回答数は 11（男 8、女 3）であった。

3. 階層図及び評価結果の分析と比較

3・1 階層図の比較

図－1、2を見ると両グループ共に評価要因、代替案はほぼ同様である。しかし、一般市民は、評価要因に「技術性」ではなく「利活用性」を挙げ、また代替案に、札幌の代表的な建築物を選定した違いが見られる。

3・2 評価結果の比較

(1) 評価要因ウエイトの比較

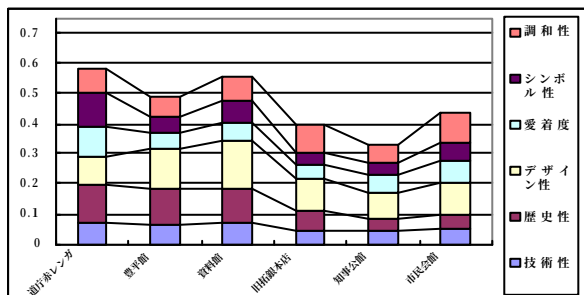
表－1 評価要因ウエイトの集計値

建築関係者		一般市民	
歴史性	0.144	歴史的背景	0.010
デザイン性	0.221	デザイン性	0.197
愛着度	0.194	愛着度	0.125
技術性	0.133	利活用性	0.132
シンボル性	0.132	シンボル性	0.300
調和性	0.176	調和性	0.157

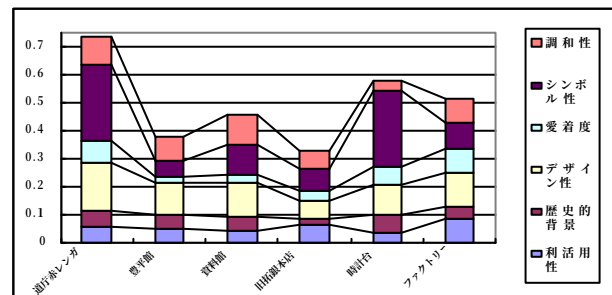
建築関係者、一般市民の評価要因ウエイトの集計値を表－1に示す。そして、これらから次のことが言える。①一般市民が極めて重視している「シンボル性」を、建築関係者は最も軽視している。②「調和性」は共に、同じくらいのウエイトである。③「デザイン性」は両グループ共に重視している。④「愛着度」に関しては、一般市民ではあまり重視されていないが、建築関係者では「デザイン性」に続き 2 番目に重視されている。

(2) 総合ウエイト集計結果比較

建築関係者、一般市民の集計された総合ウエイトとその構成を図－3、4に示す。この 2つのグラフから次のことがわかる。1. 「北海道庁旧本庁舎」を両グループ共に高く評価をしている。2. 一般市民は、札幌の観光名所として知られている「北海道庁旧本庁舎」、「時計台」において「シンボル性」を高く評価しているため、この 2つの建築物が上位となった。3. 両グループ共通の 4 建築物（北海道庁旧本庁舎、札幌市資料館、豊平館、旧拓殖銀行本店）は、建築関係者では高く評価されているが、一般市民では「北海道庁旧本庁舎」以外は、低く評価されている。4. 両グループ共に重視されている「デザイン性」は、どの建築物についても極端な評価の差は見られない。5. 一般市民は、日頃身近に利用をしている現北洋銀行大通支店である「旧拓殖銀行本店」、ショッピングセンターとして利用させている「サッポロファクトリーレンガ館」の「利活用性」を他の建築物より高く評価している。



図－3 総合ウエイトとその構成（建築関係者）



図－4 総合ウエイトとその構成（一般市民）

4. おわりに

結果の比較・分析より次のことが考察される。1. 建築関係者と一般市民の間では、歴史的建築物を評価する場合、評価視点はかなり異なる。2. 両グループが重視する評価要因には違いがある。3. 一般市民は、歴史的建築物を「保全」のみではなく日常生活において、「身近に利用できる」こと、すなわち「利活用性」を求めていることが推察される。

以上のことから、今後の「登録文化財」を活かした「まちづくり」を考える場合には、「デザイン性」や「愛着度」さらには「歴史的背景」のみだけではなく、一般市民が重視している「シンボル性」や、建築関係者では要因として挙げられなかった「利活用性」を十分考慮すべきであろう。

<参考文献>

1) 鈴木聡士：AHP における意味論的評価法の提案、土木計画学研究・論文集 No.16、1999.9